

## 2022 年 救急センター業務活動報告

脳神経外科・救急センター長  
大 山 浩 史

### はじめに

本稿では 2022 年の救急車受け入れ状況を振り返る。

### 1. 救急車受け入れ状況

図にあるように例年よりやや多い受け入れ状況で始まった。前年より受け入れが少なかった月は 6 月、9 月～12 月で、総計では 2000 例を大きく上回る 2362 例となった。

### 2. 2022 年のトピック

2019 年に製鉄記念室蘭病院の整形外科縮小があり、それ以降、当院整形外科に負担がかかっている状況が継続しているが、本年はほぼ通年で整形外科受け入れの許容範囲を超える状況があり、受け入れを制限することとなった。

### 3. COVID-19 の影響

1 年間、COVID-19 の対応におわれた。9 月以降は病

棟でクラスターが頻発、並びに重症患者さんが COVID-19 に感染する状況となり、ICU を閉鎖し、感染病棟にマンパワーを注ぎ込まなくてはならない状況となった。そのため重症患者さんの受け入れが困難になった。9 月以降の救急搬入数の減少はそれが原因である。

### 4. ドクターカー、ナースカーの運用

本年はドクターカーの出動基準を見直し、意識障害、脳卒中超急性期、ショック事例に対して救急要請時のキーワードでドクターカーを出動させている。迅速に患者さんとドッキングすることができるようになり、70 代後半の低体温、心肺停止例で蘇生を行い、日常生活が可能となった症例も経験した。

### 5. 今後について

慢性的な人員不足であるが、それを理由にしては、地域住民の信頼を得ることはできない。できることから、コツコツと医療のレベルを上げ、幅を広げられればと考える。



